

《第1号議案》

2019年度事業報告

1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

地域における人権・民主主義をめぐる状況や運動の今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、各時代の社会構造の中で具体的に把握する研究に取り組んだ。

前近代分野では、身分的周縁研究と「賤民」身分研究を、地域社会の構造とその展開との関連において、また身分（制）社会全体の構造の中でとらえること、近現代分野では、人権と民主主義の歴史の展開とその特質を明らかにすることを軸とした地域史の再構成をめざすことや、近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を解明すること、などの方針をそれぞれ掲げて、以下のとおり研究を進めた。

1. 科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行した研究

①「近世・近代の『行き倒れ』とその救済の歴史的特質の究明」（研究代表者 藤本清二郎、基盤研究（C）2018～2020年度）

第2年度にあたる2019年度は6回の研究例会を開催したが、その中1回は大阪歴史科学協議会と共催して同会例会で報告した。このほか、「行き倒れからみる近世社会」をテーマとした第57回部落問題研究者全国集会歴史I分科会で研究代表者らが報告した。また、「子どもの命と人権に関する地域史研究」（研究代表者大杉由香氏）との合同研究会を開催した（2020年3月／「新型コロナ感染」対策のため、電子メール上で開催）。

②「都市部における教職員組合運動と教育実践—大阪・京都・奈良の比較史的考察—」（研究代表者 坂井田徹〔森下徹〕、基盤研究（C）2018～2021年度）

第2年度にあたる2019年度も前年度に引き続き、研究対象とする大阪・京都・奈良の教職員組合運動などに関する資料状況の確認・調査などを進めた。

2. 歴史研究会及び科研費①の研究例会の開催（会場は、部落問題研究者全国集会及び明記したもの以外は部落問題研究所／※は科研費①研究例会／敬称略）

東京歴史科学研究会との合同書評会（2020年2月16日）は、部落問題研究者全国集会歴史II分科会で追究してきた「巨大都市周辺地域の地域社会構造と民主主義に関する歴史的研究」の一環として企画したものである。

2019年

4月27日 飯田直樹：大阪の米騒動と方面委員の創設

※5月11日 鈴木忠義：生活保護法・墓地埋葬法・行旅病人及死亡人取扱法の関係について

※8月 4日 大阪歴史科学協議会と共催（同会例会、クレオ大阪中央）

藤本清二郎：近世「行き倒れ」の構造 — 貧困・身分（乞食・非人）・移動 —
竹永三男：近代における行旅病人・行旅死亡人の歴史的研究の課題・史料・方法

10月27日 第57回部落問題研究者全国集会 歴史Ⅰ分科会

藤本清二郎：近世芸備地方の移動と行き倒れ

塚田 孝：道頓堀周辺の非人行き倒れ

町田 哲：行き倒れへの着目と課題 — 四国遍路研究の立場から —

10月27日 第57回部落問題研究者全国集会 歴史Ⅱ分科会

飯田直樹：大阪府方面委員制度の歴史的性格

高岡裕之：飯田報告へのコメント

※11月23日

中川未来：1860～80年代の「脱籍無産之輩」統制と四国遍路

※12月7日

竹永三男：1920年代～戦時下の東京における「行き倒れ」

坂江 渉：黒田俊雄・熊野聡両氏の「孤絶した個人」論と日本古代の「在路飢病者」の救済

2020年

※1月13日 篠原史生：救護法制定後の京都市における精神病患者処遇の実態

※2月15日 藤本清二郎：近世信州善光寺門前の行き倒れ

高野信治：近世〈障害者〉の行方 — 実体研究の試み

2月16日 東京歴史科学研究会と共催（一橋大学） 合同書評会：鬼嶋淳『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治—』（日本経済評論社、2019年）／報告：本井優太郎・高田雅士 リプライ：鬼嶋淳

3. 学術論文等の発表

『部落問題研究』に、上記科研費研究の成果をはじめ、前近代・近現代の歴史研究の成果を掲載した。

『部落問題研究』231輯 小特集 巨大都市近郊における地域政治構造の歴史的研究—その課題と方法（源川真希、森下徹、鬼嶋淳）

『部落問題研究』232輯 藤本清二郎：近世の行倒片付、行旅病人対策の法的展開

町田哲：村方文書からみた四国遍路への対応

酒井亜希子：近世社会の疫病罹患者の忌避と救済

4. 研究成果の普及

部落問題研究所主催の学習講座「『身分』って何だろう？」（全3回）で、藤本清二郎、塚田孝、町田哲の3氏が講師をつとめた。

第1回（2020年1月19日） 藤本清二郎：近世かわた身分の成立と終焉
— 紀州を例として —

第2回（2020年1月26日） 塚田 孝：近世大坂の「非人」たち
— 身分社会と巨大都市大阪 —

第3回（2020年2月 2日） 町田 哲：身分社会のなかの四国遍路
— 行き倒れからみた民衆世界 —

5. 他学会との交流

大阪歴史科学協議会・東京歴史科学研究会との合同研究会を開催し、報告または報告者の調整を担当した。日本史研究会2019年度総会に尾川理事長が出席し、友好団体としてメッセージを披露した。

(2) 現代部落問題論・人権論の研究

研究の重点として、①「部落差別解消推進法」をめぐる問題、②人権問題意識調査の検討、③地域における人権諸課題、をあげて取り組んできた。

【現代部落問題論・人権論研究会】会場は、部落問題研究所

3月6日 石倉康次：人権意識調査の問題点

【部落問題研究者全国集会 現状分析・理論分科会】会場は、同志社女子大学

10月27日 松本聡子：地域で暮らし続けるということ

河野健男：同志社大学人文科学研究所所蔵の部落問題資料について

鳥飼慶陽：神戸時代の賀川豊彦と部落問題

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究

1. 科学研究費助成事業（科研費）の交付を受けて遂行している研究

「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究〈C〉2018年～2020年）に基づく2年目の研究を推進した。

2. 各種の研究会での報告

【教育研究会】会場は、部落問題研究所

教育研究会では適宜例会を実施してきた。各会のテーマ及び報告者は次の通りである。

4月7日 山崎 雄介：道徳科の評価をどうするか

6月9日 折出 健二：対話的生き方と暴力克服の教育の可能性—道徳「特別教科」化の問題点も視野において

9月8日 杉浦 真理：民主的な世界、日本の主体形成を考える「公共の授業」をつくる

12月22日 神代 健彦：道徳科の授業を「よりまし」にするには—「特別の教科」道徳の民主的再構成

2月16日 山口 隆：安倍「教育再生」と新学習指導要領

【部落問題研究者全国集会 教育分科会】会場は、同志社女子大学

第57回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「道徳教育と人権教育」にもとづき、次の報告と討議を行った。

10月27日 大八木賢治：中学校道徳教科書と道徳教育

梅田 修：人権教育をめぐる動向と道徳教育

3. 学術論文等の発表

科学研究費助成事業（科研費）による「人権教育における人権認識の内容と形成過程に関する基礎的研究」（研究代表者・梅田修、基盤研究〈C〉2018年～2020年）を推進し、2019年度は次の論稿を発表した。

梅田 修「人権教育をめぐる動向と道徳教育」（『部落問題研究』第231輯）

(4) 人権に関わる文芸の研究

【文芸研究会】会場は、部落問題研究所

2カ月に一度、例会（第213～216回）を開催してきた。各回の日時およびテーマは次に示すとおりである。

第213回（5月19日）：細井和喜蔵作『奴隷』を読む

第214回（7月14日）：細井和喜蔵作『工場』を読む

第215回（9月15日）：細井和喜蔵作『女工哀史』を読む

第216回（2月16日）：坂口安吾作『火』における部落問題記述を読む

上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の「文芸研究会ニュース」に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、230回を数えている。

【部落問題研究者全国集会 思想・文化分科会】会場は、同志社女子大学

第57回部落問題研究者全国集会「思想・文化」分科会では、〈テーマ：細井和喜蔵『奴隷』『工場』（岩波文庫）を読む—現代とのかかわりで労働を考える—〉に基づき、次の報告と討議を行った。

10月27日 秦 重雄：『奴隷』『工場』を読む—いかにして一個の自覚した労働者たりうるか—

松本 満：岩波文庫発刊の経過とその反響

2. 部落問題の解決過程に関する研究成果の普及

部落問題研究所創立60周年を記念して実施された「部落問題解決過程の研究」の共同研究の成果は、『部落問題解決過程の研究』全5巻として完結した。この全5巻とともに、共同研究の成果を反映させた、部落問題研究所編『ここまできた部落問題の解決』（2017年刊行）を刊行し、普及に努めてきた。

2020年度の科学研究費助成事業に申請したことをふまえ、新たな部落問題解決過程の総合的地域史研究（奈良県が対象）に着手した。

3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2019年10月26日（土）～10月27日（日）に、同志社女子大学（京都市）で、109名の参加を得て開催した。

(1) 全体集会（1日目）は、宮地正人（東京大学名誉教授）氏の報告「21世紀の天皇制度を歴史的に如何にとらえるのか？」にもとづいて、質疑・討論を行った。

(2) 分科会（2日目）は、5つの分科会（歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

4. 『所蔵図書・資料総合目録』の作成及び図書・資料の収集・紹介に関する事業

(1) 『部落問題研究所所蔵図書・資料総合目録』の作成

1) 総合目録の内容を検討した。

① 図書目録

② 資料目録

③ 視聴覚等資料（写真、ビデオ、スライド、映画、テープ、ポスター、パネル、絵画、軸物）目録

2) 三カ年計画の初年度（2019年度）は、主に「③視聴覚等資料」の整理とデータ入力を行った。

(2) 部落問題関係図書・資料の収集

A・フェイガン『人権の世界地図』（丸善出版）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けるとともに、歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸等に関する資料の収集を進めた。

(3) 関係図書・資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

5. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

(1) 『人権と部落問題』（月刊）を毎月2300部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

「子どもと教職員の人権と教育」（4月号）

「あきらめない沖縄」（5月号）

「外国人労働者の人権」（6月号）

「『部落差別解消推進法』に係わる条例の検討」（7月号）

「いのち輝く平和へ」（8月号）

「高齢期と人権」（9月号）

「特別支援学校の子どもたち」（10月号）

「『道徳科』をめぐる争点」（11月号）

「強制不妊手術一国の罪を問う」（12月号）

「人権の尊重こそスポーツの原点」（1月号）

「『アイヌ施策推進法』の検証」（2月号）

「自治体の『人権意識調査』の検証」（3月号）

連載「世界のくらしと文化」のテーマは、次の通りである。

「カリブ海① 楽園の光と影」（4月号）

「カリブ海② 二度、呪われた女」（5月号）

- 「カリブ海③ 悪魔の拾った幸運」 (6月号)
- 「カリブ海④ 死者の島」 (7月号)
- 「ミャンマー連邦共和国① ある霊媒とその弟子たちの物語①」 (8月号)
- 「ミャンマー連邦共和国② ある霊媒とその弟子たちの物語②」 (9月号)
- 「ミャンマー連邦共和国③ ある霊媒とその弟子たちの物語③」 (10月号)
- 「ミャンマー連邦共和国④ ある霊媒とその弟子たちの物語④」 (11月号)
- 「インドネシア① 異国の「トンデモ格闘技」と呼ぶ前に—日本とペンチャック・シラットのかかわり—」 (12月号)
- 「インドネシア② インドネシアで疎まれる—ペンチャック・シラット界限でのコミュニケーションのあり方」 (1月号)
- 「インドネシア③ インドネシアで化かされる—ペンチャック・シラットとおばけ退治」 (2月号)
- 「インドネシア④ 祭りを手伝い、身内になる」 (3月号)

(2) 紀要『部落問題研究』の229輯、230輯、231輯、232輯を各500部刊行した。主な論考は、次の通りである。

229輯 第56回部落問題研究者全国集会報告

230輯 のび しょうじ「まぼろしの八幡菖蒲草を復原する」

萩原 園子「生江孝之と融和事業—一九二〇年代の社会教化をめぐる」

松本 聡子「精神医療福祉臨床にみる住まいの貧困—ホームレス状態にある社会的入院者から考える」

231輯 小特集 巨大都市近郊における地域政治構造の歴史的研究—その課題と方法

源川 真希「戦後のデモクラシーを地域社会からどのように議論するか」

森下 徹「地域における『戦後民主主義』の成長と社会運動」

鬼嶋 淳「戦後地域における『デモクラシー』研究の課題と方法」

梅田 修「人権教育をめぐる動向と道徳教育」

鈴木 忠義「生活保護法・墓地埋葬法・行旅病人及行旅死亡人取扱法の関係について」

232輯 藤本清二郎「近世の行倒片付、旅人病人対策の法的展開—広島藩の場合」

町田 哲「村方文書からみた四国遍路への対応—国元・宿泊・費用」

酒井亜希子「近世社会の疫病羅患者の忌避と救済—紀州藩領尾鷲組における『疱瘡』を事例として」

(3) 関係図書の編集と刊行

1. 鳥飼 慶陽『賀川豊彦と私たち—部落問題の解決と番町出合いの家』(2019年6月) 500部刊行
2. 部落問題研究所編『部落問題の解決に逆行する「部落差別解消推進法」』(2020年3月) 2000部刊行

6. 法人の機能を活用した各種サービス

(1) 輪読会・読む会の開催

1. 『新生』（島崎藤村）の輪読会の開催

『東方の門』（島崎藤村）輪読会に続いて、2018年6月3日より、原則として毎月1回『新生』輪読会を開催してきた。2019年3月で10回となる。各回10名前後の参加者があった。

2. 「水平新聞」を読む会

全国水平社創立100年（2022年）を迎えるにあたり、新たに「水平新聞」を読む会を立ち上げた。

(2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照のこと）。会場は、明記したもの以外は部落問題研究所。

- 4月 7日 教育研究会
- 4月27日 歴史研究会
- 5月11日 歴史（科研費）研究会
- 5月19日 文芸研究会
- 6月 9日 教育研究会
- 7月14日 文芸研究会
- 8月 4日 歴史（科研費）研究会（共催／大阪市天王寺区）
- 9月 8日 教育研究会
- 9月15日 文芸研究会
- 10月26日 第57回部落問題研究者全国集会 全体会（同志社女子大学）
- 10月27日 第57回部落問題研究者全国集会 分科会（同志社女子大学）
- 11月23日 歴史（科研費）研究会
- 12月 7日 歴史（科研費）研究会
- 12月22日 教育研究会
- 1月13日 歴史（科研費）研究会
- 2月15日 歴史（科研費）研究会
- 2月16日 歴史研究会（共催／東京都国立市）
- 2月16日 教育研究会
- 2月16日 文芸研究会
- 3月 6日 現代部落問題論・人権論研究会

(3) 学習講座の開催

第1回学習講座を実施した。

- 1. テーマ：「身分」って何だろう？—近世日本の「身分」研究の成果に学ぶ

2. 講座内容者

第1回（2020年1月19日）

藤本清二郎：近世かわた身分の成立と終焉—紀州を例として—

第2回（2020年1月26日）

塚田 孝：近世大坂の「非人」たち—身分社会と巨大都市大坂—

第3回（2020年2月2日）

町田 哲：身分社会のなかの四国遍路—行き倒れからみた民衆社会—

3. 参加者 第1回 19名／第2回 19名／第3回 12名

（3）講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣については、全国地域人権運動総連合（人権連）主催「地域人権問題全国研究集会」への講師要請に毎年応えているのをはじめ、「部落差別解消推進法」に係わって開催されている人権連の各種集会や学校現場での研修への講師要請に伝えてきている。

（4）関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

（5）相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

7. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

全国各地で活動している研究機関・研究会などと連絡を密にして、研究・調査・学習などの事業について、協力関係を発展させてきた。

「全国水平社創立100年」に向けて、全国地域人権運動総連合などと準備会を組織し、取り組みの概要について議論を重ねてきた。

8. 役員会等の開催

（1）臨時総会の開催

2020年3月20日（金／祝）に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

①2020年度事業計画

②2020年度資金調達及び設備投資の見込みについて

③2020年度収支予算

④特別会員の推薦

(2) 役員会

1) 理事会を 回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

- 第1回 議事 ①理事長（代表理事）・常務理事の選任
（5月12日）
- 第2回 議事 ①部落問題研究所の基本方針
（6月30日） ②2018年度決算を受けての財政上の課題
③部落問題研究者全国集会の講師の旅費支給
④部落問題研究所の新体制
⑤所蔵資料の整理作業
⑥研究委員の登録
- 第3回 議事 ①財政活動について
（7月28日） ②事業活動について
③研究活動について
- 第4回 議事 ①財政活動について
（9月29日） ②事業活動について
③財政活動について
④将来検討委員会について
⑤建物の修繕について
- 第5回 議事 ①財政活動について
（12月8日） ②事業活動について
③研究活動について
④資料整理について
⑤会員拡大について
⑥HPの改善について
⑦建物の修繕について
- 第6回 議事 ①財政活動について
（1月26日） ②事業活動について
③研究活動について
④会員拡大について
⑤HPの改善について
- 第7回 議事 ①2019年度臨時総会の議案
（3月1日） ②2020年度定時総会一午後の研究会
③部落問題研究所会費規定の改定
④事業活動について
⑤研究活動について
- 第8回 議事 ①2019年度臨時総会の議案
（3月20日） ②部落問題研究所会費規程の改定
③国内研究員の受け入れについて

2) 監事(4名)は、4月26日に、2019年度定時総会(5月12日)に附議する業務執行状況・財産状況について監査し、これを承認した。

(3) 委員会

2019年度より、5つの委員会体制(編集委員会・研究委員会・財政委員会・事業委員会・資料委員会)をとっている。2019年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回、財政委員会を5回、事業委員会を5回、資料委員会を4回開催し、所管の事項を審議した。

(4) 所内会議・事務局会議

役職員全員による所内会議を2回開催し、部落問題研究所の運営について適宜協議した。また、適宜理事長・常務理事・職員・ボランティアによる事務局会議を開催した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度は5回、2017年度は3回、2018年度は1回開催した。2019年度は2回開催した。

(6) 会員の異動状況

2019年度末会員は、表1の通りである。

表1 会員数動向 2019年度

種別	2018年度末	2019年度		2020年3月31日現在	
		入会 (上欄種別移行)	退会 (上欄種別移行)	2020/3/31現在	増減
A 12,000	251	1 4	3 19	234	-17
B 6,000	36	1 5	2	40	4
C 20,000	73	3 3	2 2	75	2
賛D 50,000	19		1	18	-1
E 特別会員	1	2		3	2
種別移行計		7	7		
小計	380	12	22	370	-10

(注) 2020年3月20日の理事会で公益社団法人部落問題研究所会費規程を改定した。会員A・会員Bはそのままであるが、賛助会員Cは会員Cに、賛助会員Bは賛助会員Dに変更し、賛助会員Aは会員がいないので廃止した。

(7) ボランティアの協力

2019年度は、新たに1名の協力があつた(元高校教師)。

《第 2 号議案》

貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録、監査報告の承認の件

I. 貸借対照表

(別紙参照)

II. 正味財産増減計算書

(別紙参照)

III. 財産目録

(別紙参照)

IV. 監査報告

(別紙参照)